



平成筑豊鉄道

車両運転体験・ミニちくまる号・軌道保線車に乗車



1 実際のへいちく車両を運転する体験コーナーで、運転士に加速とブレーキの操作を教わりながら車両基地内約100m間を運転する参加者。2 子どもたちに親しまれているへいちくのマスクット「ちくまる」。3 線路の点検に使う軌道保線車に乗車して、仕事現場の臨場感を体験。4,5 たくさんの笑顔運ぶミニちくまる号。

JAL (日本航空山口・北九州支店)

世界一の折り紙ヒコーキ教室

1,2 紙飛行機の室内滞空時間のギネス記録(29秒2)保持者で、日本折り紙ヒコーキ協会の戸田拓夫会長が、折り方や飛ばし方をレクチャー。3 参加した児童73人は保護者やJALの社員と一緒に、より高く遠くへ飛ばす方法を考えながら作成。4 一斉に放たれた紙ヒコーキが空中を悠々と旋回し、会場に笑顔をプレゼント。



のりものフェスタふくち

JAL・トヨタ九州・へいちく

Experience Festa 学習1-1

へいちくの本社がある福智町で初めて開催した「のりものフェスタふくち」。航空機・自動車・鉄道の3社がタイアップしたコラボ企画は、子どもたちがものづくりへの関心を高めるとともに、憧れの職業を身近に感じるドリームイベントとして、華々しくスタートを切りました。



トヨタ自動車九州

衝突安全ボディ・風船自動車工作教室



1,2 車体はどうやって衝撃を吸収するかを学びながら、自由な発想で車のフロント部分に装着するオリジナル部品を作成。実際に吸収する衝撃の強さを科学的に測定し、参加者28人で競争。3,4 風船自動車の工作教室には、幅広い年齢の子どもたち57人が参加。ものづくりの楽しさを保護者とふれ合いながら体験。

夢のコラボレーションでものづくりを身近に

秋も一段と深まり、行楽シーズン真っ只中の11月24日、他の観光地にも引けをとらない約5千人もの人々が、金田駅裏のイベント会場に詰め掛けました。のりものを通して次代を担う子どもたちの「ものづくり」への関心を高め、福智を広くPRすることを目的に、日本航空(JAL)・トヨタ自動車九州・平成筑豊鉄道が初めてタッグを組んで開催した「のりものフェスタinふくち」。子どもたちが憧れる職業として人気が高い、この空と陸にちなんだ夢のコラボイベントが、今回福智を舞台に多数企画され、来場者が世代や地域の枠を超えてその魅力を堪能しました。JALの教室では、国外がほとんどで国内では指導することが珍しい日本

折り紙ヒコーキ協会の戸田拓夫会長を講師に招き、ギネス記録を持つそのノウハウを特別に伝授。また、車体の衝撃吸収実験などを企画したトヨタ自動車九州は、自動車業界トップの確かな技術と経験を生かして、子どもたちの創作意欲を高め、「ものづくり」の楽しさを伝えました。さらに、へいちくは、夢を身近に感じてほしいと、全国でも珍しい車両運転体験を実施。運転士から直々に運転方法を学び、参加者が目を輝かせました。子どもたちが将来の夢を抱き、創意工夫する力を伸ばし、保護者との絆も深めた「のりものフェスタinふくち」。福智でしか実現できない「つながり」が、会場を活気とワクワクするような楽しい雰囲気に包み込み、福智がまた新たなステージへと進む足掛かりとなる期待を高めました。

魅力を融合する複合イベント

福智町に本社を置く平成筑豊鉄道の「のりもの」というコンテンツに着目し、福智でしか、実現できない今回のコラボイベント。その魅力を通して、近年、希薄化が進む子どもたちの「ものづくり」への関心を高めることを目的に、5会場で11種類のイベントを実施しました。各企業の催しをはじめ、「ラジコン&ミニ四駆レース」などのユニーク企画で、各地方からの誘客を図り、スタンプラリーなどで各会場の回遊性を高めました。



町内の恒例イベントとの連携

熱気球の係留飛行体験や町内の飲食店が出展するフードストリート、フリーマーケットなどで人気を博している商工会青年部主催の「フクチ夢バルーンフェスタ」。今年で3回目を迎えるこの人気イベントと同時開催することで、内容の規模をさらに広げ、統一的なPRで、町の交流人口増加と知名度向上を図りました。

